

情報システムの変遷

NEKO トータルシステム(第1次 NEKO システム) [1974年~]

路線・運送事業中心の運用

各営業所の端末とヤマトシステム開発本社のホストコンピュータをオンライン化。運賃自動計算、貨物追跡・問い合わせ、メッセージ交換などのシステムが組み込まれた



テレックス



営業所の端末

第2次 NEKO システム [1980年~]

宅急便システムの構築

バーコード付き宅急便伝票と専用端末機「NEKO-POS」を採用。情報入力を①売上②持戻③持戻の3回行い、異常報告も可能になったことで、お客さまからの問い合わせ対応だけでなく、サービスレベルや品質管理にも情報活用が可能に。全国ネット宅急便オンライン情報網も完成



NEKO-POS

第3次 NEKO システム [1985年~]

軒先情報入力

SD 全員が携帯端末機ポータブルPOS (PP)を持ち、集荷時に軒先で付属のライトペン(ペン型バーコードリーダー)により送り状情報を入力。売上・持戻・持戻の入力機能強化、印刷機能の充実、商品開発に伴うシステム書き換えの簡易化を実現。運賃自動計算、着店自動検索が可能に。各営業所にはワークステーション(WS)を導入



PP



WS

第4次 NEKO システム [1993年~]

軒先完結

タッチパネル式を採用した新型 PP、社員用・取扱店用・顧客用の3種類のICカードを導入。軒先で領収書発行と着店ラベル印刷が可能に。さらに12台のPPのデータを一度にWSに転送できるPPステーションも導入。顧客即時登録システム、取扱店即時登録システム、全量配完システム、作業帳票保存システムが実現



PP



PPステーション

第5次 NEKO システム [1999年~]

システムのオープン化・軒先ワンハンドオペレーション

データセンターのシステムがUNIXベースのリアルタイムシステムへと移行し、オープン化。PPとプリンタは独立した端末になり、無線通信で連動。PPは小型軽量、大容量となり、バーコード読み取りにはレーザーキャナを採用。PPからWSへのデータ転送は接続機器クレードルを使用



PP



プリンタ



クレードル

第6次 NEKO システム [2005年~]

システムのWeb化・軒先決済・Bluetooth利用

PP、プリンタ、携帯電話、カード決済端末が独立した端末になり、Bluetoothで連動。現金・クレジットカード・デビットカードでの決済に対応。ご不在連絡票の2次元コードシール出力による再配達指示の簡略化。データ転送は携帯電話による軒先自動アップロード



PP



プリンタ



携帯電話



カード決済端末

第7次 NEKO システム [2010年~]

クロネコメンバーズ対応・軒先電子マネー決済

PPに非接触ICカードリーダーを搭載し、カード決済機能と一体化。クレジットカード・デビットカード・電子マネーに対応し、複数の交通系電子マネーも使用可能。リアルタイムの情報処理を実現したWeb通信機能搭載。WSへのデータ転送は無線LANを使用



PP



プリンタ



携帯電話

第8次 NEKO システム [2017年~]

タブレットによる集配の可視化とリアルタイム通信

携帯端末は、タブレット(スキャナー一体型)、プリンタ、携帯電話、カード決済端末の4種類。PPの機能を果たすタブレットで、電子住宅地図・集配状況や集配ルート等の情報を可視化。通信のリアルタイム化により、集配依頼データの即時配信が可能



タブレット



プリンタ



携帯電話



カード決済端末

社内視点での開発「業務効率化」

お客さま視点へ転換